

ノリタケの歴史は、1876(明治9)年、福沢諭吉の助言を得て森村市左衛門という人物が、東京・銀座に「森村組」を創業し、アメリカとの貿易を開始したことに始まります。当初の輸出品は日本の骨董や雑貨でしたが、次第に日本風の絵を付けた陶磁器の割合が増えていきました。1889(明治22)年、パリで開催された万博を視察した市左衛門らは、美しく精緻に絵付けされたヨーロッパ製の陶磁器に目を見張り、「これに負けない陶磁器を日本で作りたい」という熱い思いを抱き、その挑戦を始めます。

そして、1904(明治37)年、名古屋の地に日本陶器合名会社(現 ㈱ノリタケカンパニーリミテド)を創立し、近代的な陶磁器工場を建設しました。さらに、幾多の困難を乗り越え、日本で初めて白色硬質磁器による洋食器ディナー皿の製造に成功し、1914(大正3)年より本格的なディナーセットの輸出を始めました。この後、創業地に由来する「NORITAKE」の名前を冠した洋食器は各国へ輸出されるようになり、ノリタケは世界的に知られる洋食器ブランドへと成長していきました。

ノリタケは、大正期以降、製造の中心を実用品としてのディナーウェア(洋食器)に移っていきましたが、一方で初期に盛んだった花瓶や飾り皿(額皿)、置物といった鑑賞用品(ファンシーウェアと呼ばれる)の生産も継続しました。

熟練技能者の技

飾り皿の世界

期 間 / 2010年3月30日(火)~2011年4月3日(日)

場 所 / ノリタケの森クラフトセンター3階

ノリタケミュージアム(開館時間10時~17時)

休館日 / 月曜日【月曜日が祝日の場合は翌平日】、年末年始

クラフトセンター入館料 / 大人及び学生.....500円(団体割引有り)

高校生.....300円(団体割引有り)

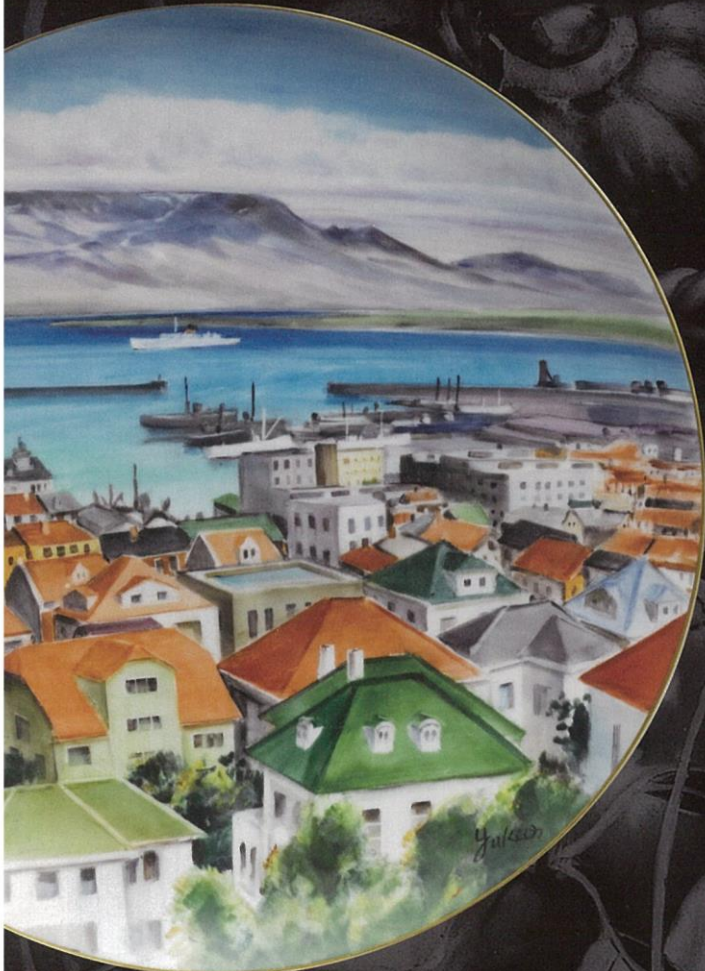
中学生以下の方.....無料

障害者手帳をお持ちの方、
65歳以上の方は証明書の提示により...無料



ノリタケの森クラフトセンター内
ノリタケミュージアム

〒451-8501 名古屋市西区則武新町三丁目1番36号
TEL 052-561-7114(代) FAX 052-561-7276



1909(明治42)年、従業員の技芸の進歩を目指し、社内教育機関として洋画科、日本画科、彫刻科の3科からなる「技芸科」が設置されました。この技芸科は近年まで継続され、長年にわたり多くの絵付け技能者(ペインター)の育成に貢献し、このなかから洋画家、日本画家として活躍し、美術団体の展覧会に入賞入選するペインターも現れました。また、1930(昭和5)年には日陶洋画研究会が発足し、洋画部教授として、のちに日本芸術院会員となる画家、鬼頭鑑三郎が就任しています。こうした環境のなかで育てられた熟練技能者が手描き(素描・すがき)で絵付けした飾り皿は特に工芸性が高く、当ミュージアムにも、大正末期から昭和50年代にかけて制作された作品のいくつかが残っています。薔薇や果物の絵柄や風景画が、一枚一枚精緻な筆遣いで描かれ、見る者の心を奪います。

現在のノリタケ製品は、主に転写紙を使って絵付けしていますが、手描き(素描)絵付けの技法も、高級品やアート品などの特別な商品の生産のために、今日のペインターにしっかりと継承されています。その卓越した技能は、ノリタケの森クラフトセンターの2階で実際にご覧いただくことができます。

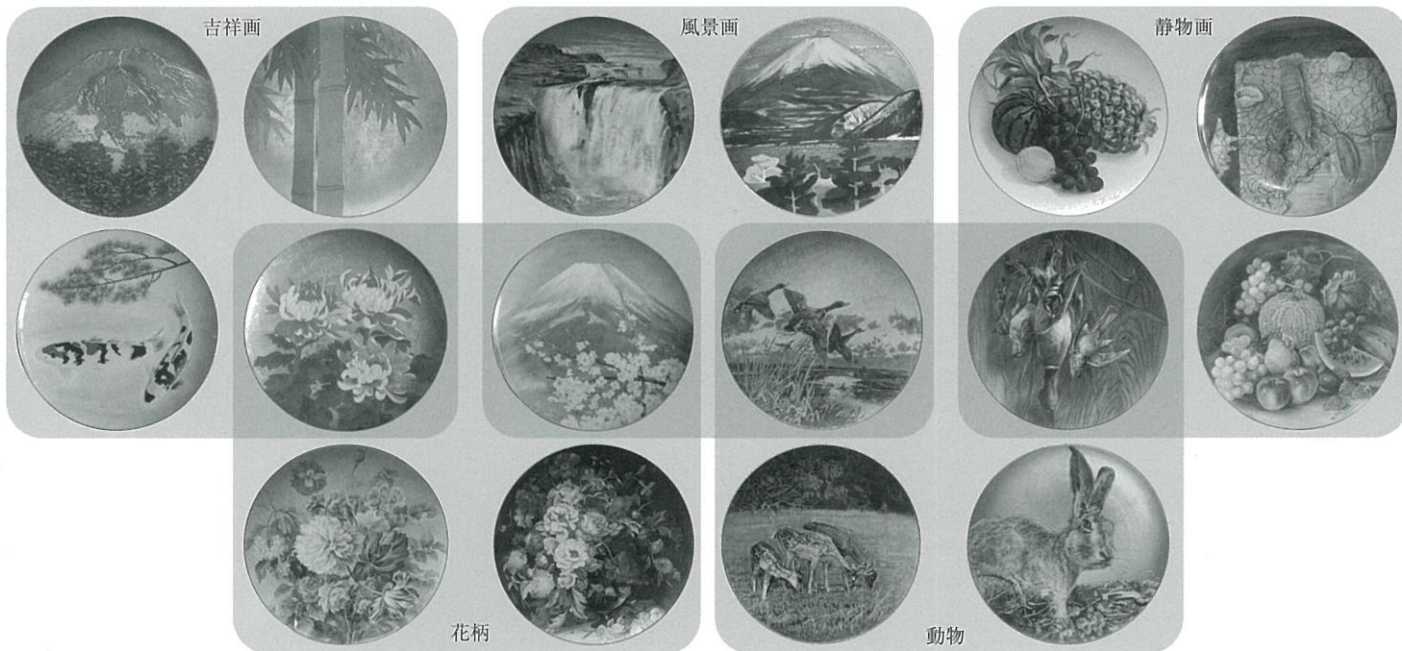
この度、ノリタケの伝統技法である「手描き(素描)絵付け」で制作された飾り皿を集めて展示しました。熟練技能者達の技と息遣いをご堪能ください。

ノリタケミュージアム



図柄の題材

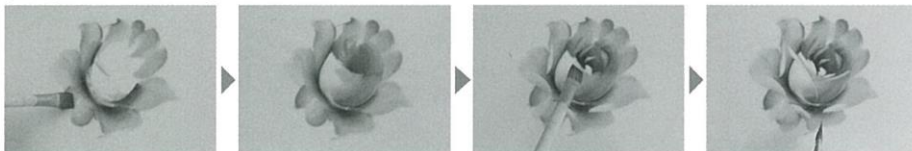
最も多くみられる図柄は花柄と風景(名所)で、花柄もナチュラルなものから、モダンアート風な表現のものまでさまざまである。風景画には外国の景色のほか、富士山をはじめとする日本各地の名所や地元名古屋近郊の名所を扱った題材が見られる。果物や食材の静物画、鳥や動物をモチーフにした図柄、さらには赤富士、朱竹、夫婦鯉、昇龍などの吉祥画がある。



絵付け技法

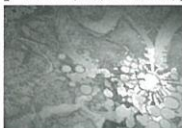
丸筆を多用するヨーロッパの陶磁器絵付けとは異なり、ノリタケでは平筆を使った絵付けをする。平筆に絵具をとってその穂先の幅でグラデーションをつくりトーンを表現していく。絵具を塗り重ねるのではなく、サッとひと息で描きあげる。絵柄のハイライト部は陶磁器の地肌の白さをいかして表現する。

【平筆を使った絵付け】



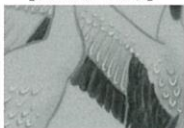
また、金・銀彩による加飾(金腐らし)、レリーフ(モールド)、白盛りなど陶磁器独自の技法が用いられた作品もある。

【エッチング(金腐きんぐらし)】



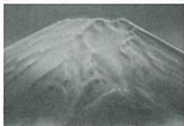
腐食させない部分は防護膜で覆い、素地の釉面をフッ化水素で腐食させ模様を浮き立たせる技法。その後、水金で加飾し焼成する。現在は圧縮空気ですり材を吹きつけるサンドブラスト技法で同じ効果表現している。

【白盛:しろもり】



盛り上げ用の白絵具で模様を描き焼成し、アクセントをつける技法。

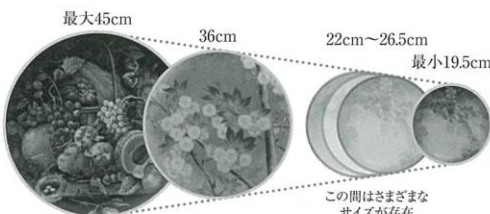
【レリーフ(モールド)に加飾】



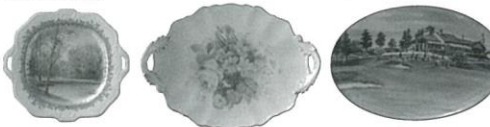
彫刻を施した型を利用して浮き彫りの素地を成型、焼成する。その後、上絵付けを施し焼成する。

サイズ

飾り皿のサイズは、20cm程から45cm(尺5)まで。このほか、プラター(楕円皿)などいろいろな種類のプレートがある。今回の展示は最も多く作品が残っている36cm(尺2)サイズを展示した。

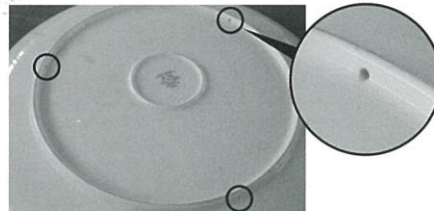


その他の種類



飾り皿

白色硬質磁器製品の裏面高台には紐を通して壁に掛けることができるよう三箇所の小孔があげられている。この観賞用に制作された皿は、大正期から昭和50年頃かけて制作された。額装する場合もあり「額皿」とも云われる。



銘

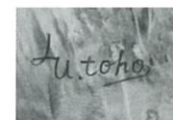
作品の多くには制作担当者(絵付け技能者)のサインが入っているが、作業者個人の銘を入れない時代もあった。作業者名ではなく絵付け技能者グループとして使った「陶峰(とうほう)」



【和文】



【印】



【英文】



ノリタケの森クラフトセンター内 ノリタケミュージアム

〒451-8501 名古屋市区西則武新町三丁目1番36号
TEL052-561-7114 [代] FAX052-561-7276

■ 交通 ■ 地下鉄東山線「亀島」駅下車2番出口より徒歩5分
JR名古屋駅～徒歩15分、名鉄栄生駅～徒歩15分

■ 駐車場 ■ 有り

【チャイナペイント教室】

ノリタケアーティストクラブでは、1990(平成2)年10月ノリタケ陶芸クラブとして開講以来、一般の皆様にもノリタケの陶磁器絵付けの世界をご自分のものとして楽しんでいただくべく、ベテラン講師が指導を行っています。(3年間修了の会員制)
問合せ先:052-561-7150

